

水稻の生育状況と今後の管理対策（臨時号）

令和 7 年 9 月 5 日
新潟県農林水産部

〔気象予報〕

- 9月4日発表の北陸地方1か月予報（9月6日から10月5日）では、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は多いと予報されています。

〔今後の生育等の見込みと管理対策のポイント〕

コシヒカリ

- 出穂の穂ぞろいが悪く、ほ場内で登熟の進みがばらついており、粃の黄化割合が低い状態で刈り取ると玄米に青未熟粒や除青未熟粒が多く混入する可能性があります。
- 緑色粃が平年より多く、粃水分も高めであることから、地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報、出穂後積算気温表などを参考に必ずほ場ごとに粃を確認し、平均的な株の粃黄化割合が85～90%程度になったら収穫しましょう。可能であれば、粃の水分も測定しましょう。
- 適切なふるい目で粒厚選別を行い、色彩選別機を利用可能な場合は併用し、整粒歩合を高めましょう。

新之助

- 地域の出穂後積算気温表とほ場ごとの粃の黄化割合を確認し、積算気温1,050～1,100℃、粃の黄化割合85～90%をめやすに収穫してください。
- 必要に応じてふるい目を上げる、色彩選別機を活用するなど、品質基準を満たすように調製しましょう。

胴割粒対策

- 収穫期直前（粃水分が22%未満、出穂後積算気温900℃以降）に空気が乾燥すると胴割粒が増加します。
- 空気が著しく乾燥した場合は、県が「異常高温・高飽差緊急情報」を発出しますので、できる限り速やかに収穫を始めてください。
- 乾燥作業中の胴割粒の発生を防ぐため、収穫時の粃水分が低い場合には、乾燥機への張り込み後に通風循環するなど、水分ムラを解消させてから加熱乾燥を行いましょう。必ず手持ちの水分計で仕上げ水分を確認してください。

収穫後の土壌管理

- 近年、秋が高温のため、ひこばえが大きくなり翌年のワキに影響しています。また、稲わらを春にすき込むと、急激に分解し、ワキが多く発生します。ワキの発生防止と土づくりのため、稲わらの秋すき込みを行いましょう。
- 粃殻はケイ酸成分を含む有用資源ですので、積極的に施用しましょう。
- 稲わらや粃殻は1か所に偏ると、初期生育が悪くなることや、遅れて葉色が濃くなる可能性があるため、できるだけ散らしましょう。また、地温が高いほど分解しやすいので、収穫後できるだけ早い時期に浅めにすき込みましょう。
- 排水の悪いほ場では、排水溝を入れ表面排水を促しましょう。

熱中症予防

- 気温が高く、特に湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。
- 農作業中は、熱中症予防対策を必ず行いましょう。
 - ・ 気温の高い時間帯に作業しない。
 - ・ 単独で作業しない。
 - ・ 休憩はこまめにする。
 - ・ 定期的に水分・塩分を補給する。
 - ・ 帽子等で直射日光をさえぎる。
 - ・ 暑さ対策用品を活用して身体を冷やす。
- 寝不足や疲労がたまると熱中症になりやすくなるので、日頃から体調管理に十分注意しましょう。

農作業安全

- 農業機械を運転するときは、ヘルメットを必ず着用しましょう。
- 収穫作業時のコンバインの転倒・転落や、タオル、衣服、軍手などの動力部への巻き込みに十分注意しましょう。
- できるだけ二人以上で作業し、やむを得ず一人で作業する場合は、家族などへ行き先を告げるとともに、緊急時に連絡がとれるよう、携帯電話を身につけておきましょう。

盗難防止

- 県内で農産物の盗難被害が連続で発生しています。
- 作業場のシャッターや保管場所は施錠し、防犯カメラをつけるなど、盗難防止対策を強化してください。

〔補足資料〕

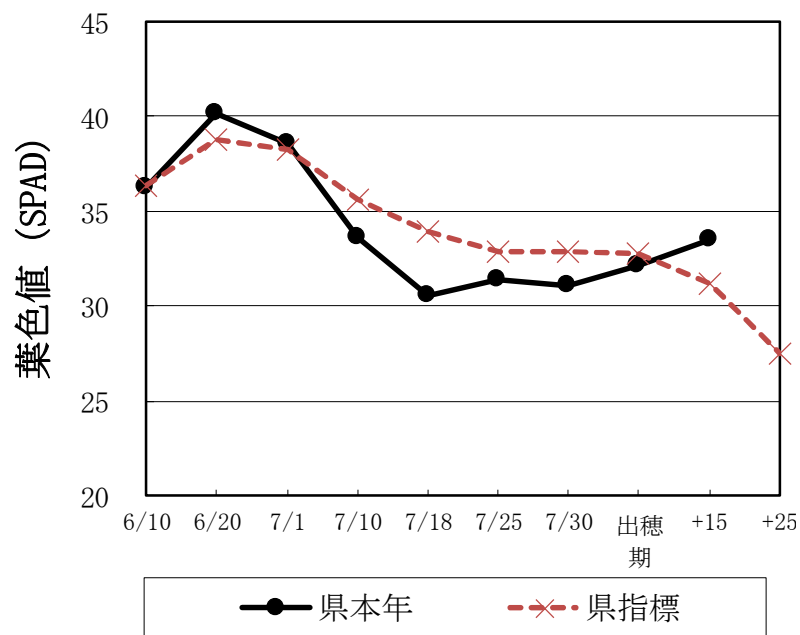
1 農業普及指導センターの生育状況

コシヒカリ

- 稈長は、県平均で指標値に比べ「やや長い」の状況です。
- 出穂後 15 日頃の葉色は、県平均で指標値に比べ「濃い」状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
稈長 (出穂後 15 日)	97	92	やや長い	105
出穂期葉色 (SPAD 値)	32.1	32.8	並	-0.7
出穂後 15 日頃の葉色 (SPAD 値)	33.5	31.2	濃い	+2.3

注) 県内全域の 14 生育調査ほデータの平均値 (田植え 5 月 12 日、栽植密度 17.2 株/㎡)



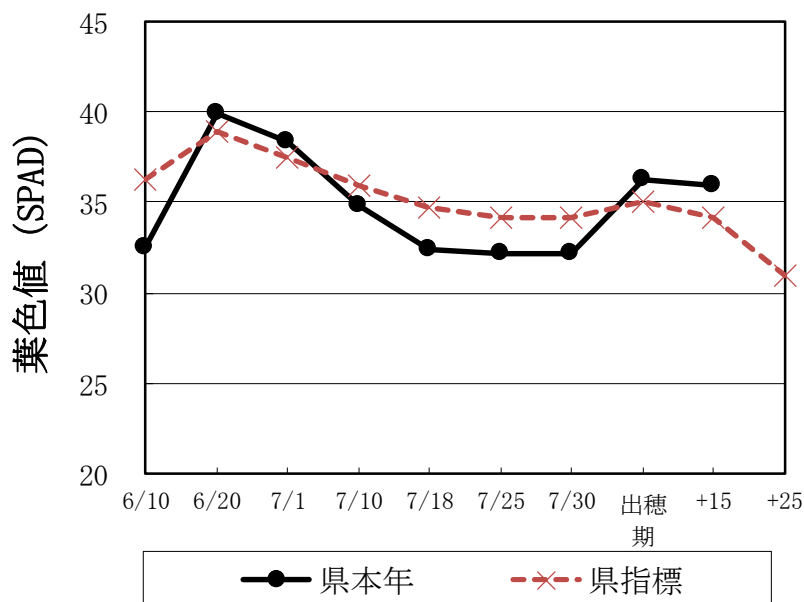
生育調査ほにおける葉色の推移

新 之 助

- 稈長は、県平均で指標値に比べ「並」の状況です。
- 出穂後 15 日頃の葉色は、県平均で指標値に比べ「やや濃い」状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
稈長 (出穂後 15 日)	79	78	並	101
出穂期の葉色 (SPAD 値)	36.2	35.0	やや濃い	+1.2
出穂後 15 日頃の葉色 (SPAD 値)	35.9	34.1	やや濃い	+1.8

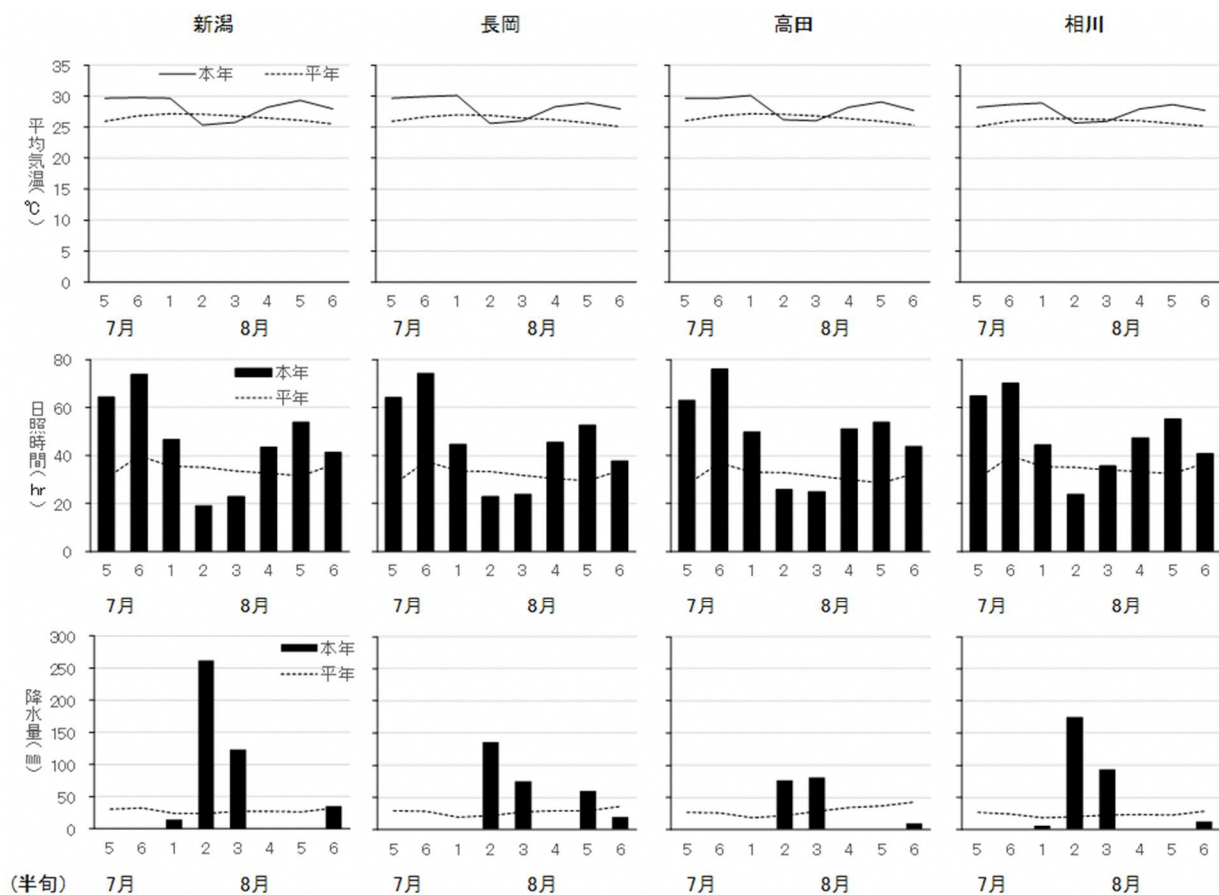
注) 県内全域の 14 生育調査はデータの平均値 (田植え 5 月 19 日、栽植密度 16.7 株/㎡)



生育調査における葉色の推移

2 気象の推移

気象の推移（アメダスデータ）



本年の登熟気温

登熟期間の気温	コシヒカリ (8/2 出穂)		
	本年	前年	平年
出穂期 1～10 日後の平均日最高気温	30.5	30.7	31.3
出穂期 1～20 日後の平均気温	27.1	28.0	26.8
出穂期 5～24 日後の平均気温	27.4	28.2	26.6

注 1) 新潟普及指導センターの出穂期、気温データはアメダス新潟

注 2) 高温登熟年の判断のため

- ①出穂期 1～10 日後までの平均日最高気温が 33℃以上（胴割粒率の増加）
- ②出穂期 1～20 日後までの平均気温が 27℃以上（白未熟粒の多発誘因）
- ③出穂期 5～24 日後までの平均気温が 26℃以上（基部未熟粒の多発生）